

令和元年度第1回奈良県こども・子育て支援推進会議での主なご意見と対応の内容

ご意見	対応の内容
<p>新計画の施策について</p> <p><子育てに関する課題></p>	<p>いただいたご意見の趣旨を新計画の推進施策の中に盛り込む。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 縦割りではない天理市の取組のようなことを、県でも取り入れてはどうか。 母親同士で問題解決ができ不安感がなくなる。いかに母親同士の出会いの構築、きっかけづくりの提供ができるかが重要 高齢出産が増え、子育てと一緒に介護をしているなど親子が多様化しているため、多様なケアが必要 情報を集約したり、その人その人の支援を組み立てられたりと、俯瞰した見方ができる地域のキーパーソンの育成は必要 <ul style="list-style-type: none"> 子育てで家庭が抱える問題は相互に複雑に絡み合っており、特効薬はない。 行政機関に相談に行くのは、それだけで心理的にハードルが高く、そこへこぎ着けるのが難しい。 特段相談することや目的がなくても「遊びに来てもらえる場所」を提供することが大事 子育てのストレスは、専業主婦の方が感じている。いわゆる「三歳児神話」の悩み 情報はいくらでも入ってくるので、信頼できるところの情報をいかにとるか。ますます不安になってしまわないように工夫を。 1年程度で復職する母親たちが増えている。そのため、妊娠中からしっかり拠点を知り、タイミング良くつながっていき、なにかあったとき、相談してもらえるよう、妊娠中からひろばを見学する機会をつくっている。 近所、地域でのつながりが希薄になっている中、1年前後で職場復帰していく母親が、短い間でも仲間づくりがしっかりできること、悩みがちな母親が、他の子育てや子どもの育ちを見ることによって、自分らしい子育てを選んでいけることが必要 <ul style="list-style-type: none"> 晩婚化・晩産化している。不妊治療の補助制度があっても額が低いし、不妊治療技術が充実した場が奈良にはない。1回50万や100万ほどかかる。1回で済めばいいが、バックアップができていない。出生率を上げる一助として、やってほしい。 	<p>【基本方針Ⅰ・推進施策1 妊娠期からの切れ目のない子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての母子を対象とした市町村の子ども・子育て支援体制の充実 だれでもいつでも相談できる子育て相談支援体制の強化 不妊に悩む方への支援
<ul style="list-style-type: none"> 高齢出産の母親は、仕事人としてのキャリアには自信を持っているが、子どもをもった途端に、母親としての自信のなさ、自分への不信感を感じ、先の見えない孤独感にさいなまれる。 妻の母親としての悩みを夫が父親としてどこまで理解できるかが問題 妊娠・出産は、誰もが同じ健康問題であるという認識をもち、家庭や周囲で、妊娠・出産・子育ての流れを理解してもらうことが大事。 出産前後、女性は命がけで出産している。劇的な変化があるし、鬱が出てくる時期があるということの理解と、普段の体調にもどるのには、何かしら支援が必要なことの理解が必要 妻が「夫に任せられない」と思っていることは、掘り下げてしっかりと支援をしていかないと女の人のはしんどいままになる。 企業は利益や売り上げを上げるだけでなく、健康経営と同じように企業としての子育て制度があったら、企業も参画できるし、働き方改革にもつながっていく。制度づくりや仕組みづくりをしてもらえたら、企業がそれののっかることで、家庭がうまくいくのではと思う。 	<p>【基本方針Ⅰ・推進施策2 男女が互いに尊重しあい喜びをわかちあう子育ての推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業や地域と連携した父親の子育て参画の促進
<ul style="list-style-type: none"> 保育園の入りやすさ、設立、駅前等立地のよさ、延長保育の充実等制度の充実を望む。 社会人として、一定のキャリアを持って仕事をしている人がほとんどだが、父親や母親としての「社会化」はまだまだ不安があるので、親を育てる視点も大事 <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園や保育所は文字では表せない経験値をもっているのので、悩んでいる母親を和ませ、捉えることができるが、スマートフォンや書いた物で、母親の不安感を癒やすことはできない。 20年近く働いてから育休を取り、復帰した。復帰できたのは保育園もだが、学童保育の力が大きかった。 小1の壁。保育園までは延長保育があったが、小学校にあがったら、18時までしか預かってもらえないので、働く女性にとっての課題 <ul style="list-style-type: none"> 昭和40年代のドラマでは、役場の方が「こどもを犠牲にしてまで仕事に復帰したいのか」という言葉を放つが、未だにその呪縛から抜け出せていない。 これから高齢出産が増えていくと思うので、女性が長く働き続けてほしいと思っている。 福祉の世界は、人が集まらない。担っていく人材がいらないのは厳しい。 働く者の立場から、男性も女性も、子どもを生み育てる環境づくり、労働力不足だから女性が働けばいいという訳ではないが、女性も社会に出やすい環境を。 課題は企業の労働条件。いろいろな制度を変えていきたい。男性の育児(のための休暇)取得制度や、こんな制度があれば辞めないですむのにと制度は声を発して変えていけたらいい。 子どもが病気で休みたい時、保育園で預かってもらえない時、休むことに対して「いいよ」と言える社会になってほしい。 <ul style="list-style-type: none"> 子どもがいても働きたいけど働けない、働くのを家に許してもらえないというので、ストレスを感じるという声がある。 	<p>【基本方針Ⅰ・推進施策4 親の成長も促す仕事と子育ての両立支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 親の成長も促す「保育」の質と量の充実 放課後の子どもの居場所づくり 子育て家庭が働きやすい職場づくりの推進 再就職の相談支援の充実
<ul style="list-style-type: none"> 満員電車の中で、泣いている子を舌打ちしながら見ている大人がいる一方、こうあるべき、というプレッシャーや壁を感じている母親たちが多い。 	<p>【基本方針Ⅰ・推進施策5 地域の子育て環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して子育てできる居住・外出環境等の整備
<p><子どもの育ちに関する課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良県は公園が少ないように思える。大きな公園は難しくても、遊具がなくても、同じ立場の者同士が声をかけられる、話せる場があればいい。 県有施設を子育てに優しい受け皿にされるなら、無料にするくらい腹づもりでやってほしい。お金を気にせず出かけられる場所は、優しい子育ての根幹ではないか。健やかに育む体制を検討いただきたい。 	<p>【基本方針Ⅱ・推進施策5 子どもを健やかに育むための環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが遊び・運動(スポーツ)し、学ぶ場の整備・充実
<p>計画のあり方等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値は必要だと思うが、平均値や数字だけでは語れない部分がある。奈良県では伝統的な文化と都市の文化の間に価値観の格差、多様性があるので、すべて平均で集約して、年度で比べていくより、それぞれ声を拾って障壁要因を挙げていくのは良いと思う。 行政機関のなかで様々な計画があるが、「奈良県の子育て」という視点をそれぞれの分野でもいつも持っていたらいいのではないか。 	<p>ご意見を参考に取組を進める。</p>